

ちようふの自然だより

ちようふ環境市民会議 info@chofu-kankyo-shimin.org 発行部数：1000部

4月24日 苗床作り

田んぼの学校では苗床の雑草を取り除くため、種蒔きの2週間前には苗床を作り、ここで丈夫な苗として育てます。温室などで苗を作らない場合、平均気温が20度以上にならないと成長に影響があります。今年は、この数年のなかでも寒いいため、苗の成長が遅れるかもしれません。

5月1日 種まき

もち米用とうるち米用の種籾をまきました。



春の田んぼはレンゲやスズメノテッポウが花盛り



田んぼの中に苗床を作る



子供たちもみんなで種まき

ちようふ DE 田んぼ

5月15日 堆肥入れ(リヤカー4〜5杯分をまんべんなく撒きます)・畔の草刈り・荒起こし(耕耘機で荒く耕し堆肥を漉き込みます)・くろつけ準備(畔にそって水を引き込みます)

雑草と草刈り
柏野小学校まわりの田んぼと私たちの田んぼには大きな違いがあります。雑草の生え方です。私たちの田んぼは草でいっぱいでした。草の種は飛んできたり、生き物が運んだりして芽を出しますが、成長して種のできる前に草を取ることのできる世代を作らなければ草の少ない畑になります。除草剤の助けなしに整備するのは、大変ですが、雑草が全く生えない田んぼはちよつと気になります。



佐須用水分流から水を引く



校長自らトラクターで荒おこし

用水路清掃 この田んぼは、カニ山奥の谷戸から湧き出る水(佐須用水)を利用しています。このように地域の人たちと共同で水を利用する場合、組合を作り共同で管理することが昔から行われてきました。私たちも田んぼで水を使う時期には用水の支流の泥さらいを行っています。が、本流は手つかずの状態です。20年ほど前には、トラック1台分位のゴミを回収したこともありましたが、いまではその10分の1くらいまで減っています。

(尾辻)

調布の生き物 田んぼ編

ホウネンエビ

佐須にある田んぼの代掻きも終わり、見た目にも田んぼらしくなる季節です。田んぼに水が入ると、すぐに様々な水生生物が姿を現します。佐須田んぼにおける生き物の代表種の一つがホウネンエビです。ブラインシュリンプ(シーモンキー)の仲間で、卵が田んぼの土の中にあり、一般的には一度乾燥した後、水に戻さないと孵化しないという、まさしく田んぼにふさわしい生き物です。漢字では豊年海老と書き、本種が多く出ると豊作になると言われていますが、本種の餌となる有機物が豊富であれば、なるほどと頷けます。

このほかに、成虫が空を飛んでやってくる小型のゲンゴロウ類やガムシ類、用水路から水といっしょに入ってくるホトケドジョウやヒキガエルのオタマジャクシ等を見ることが出来ます。

但し、これらの生き物は田んぼに水が張ってある間しか見ることができません。因みに4月24日の観察会では26種の生き物が確認できました。石川和宏



くっきりと影を落としている水中のホウネンエビ。

花の履歴書⑨

戸部英貞 (絵・文)

ハリエンジュ(針楯)
マメ科



Robinia pseudoacacia L.

標準和名のこの名より、学名を直訳したニセアカシアのほうが知名度の高いハリエンジュは、北米原産で成長が早く、根に共生するマメ科特有の根粒バクテリアが、空気中の窒素を固定することから、明治8年、街路樹や砂防用緑化樹として渡来し、各地に植えられた。

名が示すように枝には鋭い刺があり、街路樹には不向きだが、北原白秋の詩「この道はいつか来た道 ああそうだよ アカシアの花が咲いてる」と詠われたのはニセアカシアだ。
日本海側の海岸を訪ねると、どこへ行ってもクロマツの林の中にニセアカシアが生えているが、これは冬の強い季節風を防ぐ防風林の若木を育てる肥料としてクロマツ林に混植したものだそう。しかし、成長の早いニセアカシアに負けたのか、マツクイムシの影響なのか、山陰地方で

はニセアカシアの林に入れ替わった場所も見られる。高尾山の沢沿いにも砂防ダムが崩壊防止に植えられたのか、あちこちに林が見られ、花の季節には茶店で山菜として花の天ぷらが供されているが、花以外の部分には有毒成分が含まれているので、食するのは避けた方がよい。

多摩川の河川敷には流れ着いた種子から芽生えた木が各所に見られ、多摩河原橋右岸の稲城側にはニセアカシアの林が続き、土手沿いの道は「アカシア通り」と名付けられ、花のころにはミツバチの巣箱も並んでいる。
調布市側にもニヶ領上河原堰下流に十数本の林があり、最近上部が伐採されてしまったが、残された幹から萌芽した枝が伸び、切られた根の不定芽から出た新苗があちこちに芽生え、放置すれば数年で大きな林を作るだろう。

ちょうふあちこち

野川自然観察園あたり

調布市内の野川の西端は野川公園の辺りだが、この辺りは国際キリスト教大学の森にも接し(二元は大学の所有地だった)、野川流域でも最も自然豊かなところではないだろうか。
自然観察園内ではオドリコソウやチョウジソウが咲く中、ボランティアの方々が見受けられるが、お話を聞いてみると「昭和40年頃のフロラ調査があるのでそのリストに載っていないものはなるべく排除するようにしています」とのこと。

明治以降、急激に外来種が増えたのでその土地本来の植物を限定するのもむずかしそうだ。観察園内の木陰は東京とは思えない心地よさ。毎月第一日曜には植物観察会としてボランティアの方が園内を案内してくださる。野草に親しみたい方にはうってつけ。ここから少し上流、二枚橋の辺りはなぜか干上がってしまうことが多いというが、湧水を集めた野川、大事に守っていききたい。(K)



チョウジソウ

ふるやつの風景



文 瀬本敏行

③ ほたる園(カニ山)の思い出

昭和三十年頃、現在の「カニ山」キャンプ場の丘によく写生に行きました。当時は北側の道から深大寺用水の遺構までは麦が芋の畑だったと思います、そこから崖線の緩い斜面になっていました。



柏野小学校のあたりから神社と祇園寺の森をのぞむ

の外だったので、そのところはよく分かりません。もっぱら遊んだのは右手の「ひきずり坂」を挟んだ谷戸の田圃、「ホタル園」で、ここには水生昆虫や崖線林の大型昆虫が生息し、子供たちのよき遊び場所になっていました。市立野草園の中央を流れる清流の水源地は入口正面左手奥の崖下より発する湧水です。当時は崖の砂礫層から溢れ出て、木の根や苔草を伝ってジャアジャア流れ落ちる下でサワガニを捕まえて遊びました。

斜面に生えている高木は「松」くらいで、雑木もまだ成長してなかったので、草地に腰を下ろすと右手に富士山、正面に多摩川と向こう山(多摩丘陵)が一望できました。丁度田植えの時期でした。祇園寺とその東、佐須神社の森が、海原にばかりと浮かんだ小島のように観えていたのを思い出します。

今でこそ想像もできませんが、本流である青渭神社南の崖下からの湧水を合わせて、このホタル園の谷戸全体が水豊かな水田におおわれていました。この谷戸に発する「佐須用水」は幅深さ半間足らずの小さな小川でしたが、繁茂した水草(ミクリとと思う)の長い葉をたなびかせて、常に澄んだ水が勢いよく流れていました。

丘を駆け下りるとお地藏さんが並んでいました。今はキャンプ場の崖下の原っぱになっているところも、当時は田畑だったようで、そこにもハケがあつてカニがいたので「カニ山」の名があるのだと聞きました。残念ながら私の冒険テリトリー

谷戸の出口から野川に至る一帯は、祇園寺の丘を囲むように水田が広がり、この時期になると牛・馬に馬銜を曳かせて代掻きする光景があちこちで見られました。

◆若葉緑地の会



4月10日(日) 参加者7名

本来の緑地の状態に戻すため、南側の細い常緑樹を切り、高木の多い下部が少し明るくなりました。この部分も大量のゴミが出てきます。

4月21日(木) 参加者3名

入口の道に土の流出を防ぐための横木を埋める。上部草地にホタルブクロが出てきたのが確認できました。

5月8日(日) 参加者10名

今日から新会員3名が増えました。今回も、下部入口付近の整備。シユロの伐採、小木の間伐、アズマネザサ刈り、ゴミ掘り。土質が悪いのが、日当たりが悪いのか、市で植えた小木の植栽の根付きが悪いです。子供さんも良くお手伝いしてくれました。

崖線に咲くキンラン、ギンランの観察に行く。嬉しい事に昨年よりも木漏れ日の当たる所は増えていましたし、新しくギンランが群生している場所も見つかりました。

5月19日(木) 参加者4名

暑くなり草の伸び方が早く、上部陽だまりと花壇周りの草刈りに精を出しました。(住田)

◆入間・樹林の会

4月20日(日) 参加者10名

2班に分かれ根本講師と方形枠調査をし、恒例のプチ違いシリーズを教わりました。作業は、雑木林広場西側のサネカズラがあまりにもはびこっていたので伐採しましたが、まだまだ残っています。新緑の中での活動は「さわやか」でした。

花は何年ぶりかのキラソウのほか、ツバキ、コナラ、ニオイスミレ、ニリンソウ、ウラシマソウ、シャガ、ハルジオン、ヒメジオン、ムラサキケマン、タチツボスミレ、アオキ、ミドリハコベが咲き、メジロ、ヒヨドリ、シジュウカラが啼いていました。

5月15日(日)

参加者5名+子ども2名

前回の活動から2週間であつという間に新緑が深くなりだんだん薄暗くなってきました。サネカズラの残りの伐採に子どもたちが大活躍。気温は高くても湿度が低かったので作業後はとても爽快になりました。花はエゴノキ、ハルジオン、ノゲシ、オニタビラコ、カタバミ、コオニタビラコ、ヘビイチゴ、シャガ、鳥はメジロ、シジュウカラでした。(安部)

◆カニ山の会



樹高調べ



4月は雨のため活動についての話し合い。5月14日(日) 晴れ 参加者13名

天候に恵まれ、沢山の方々の参加があり、植生調査、測量、林縁部保護の三つの作業をした。

測量作業はツバキ畑跡地整備計画基礎調査としてメンバーの経験者に方法を学んだ。光波測距器(具合が悪く結局、巻尺を使用)と鉛直角測定器(分度器を使った手作り)を使用した。

まず特定の2地点からの距離を測ることにより既存樹の場所を知る。そして特定の距離(この場合は20m地点)から鉛直角測定器で仰角を測り、タンジエント計算により、樹高を算出した。

こんなときに三角関数を使うなんて!今さらながら学生時代の不勉強を後悔。胸高の幹周り(地表より1.2mの高さ)と樹冠の枝張りも計測。林業ではこれにより材積がわかり、どれくらい建材が調達できるか知ることができるといふことで、一般的に樹幹の枝が広がっていると

多量の光合成ができ、幹も太くなるそうだ。(鍛冶)

◆若葉の森3・1会

5月1日(日) 参加者6名

五月晴れの若葉町3丁目第1緑地・第2緑地には筍が顔を出していました。手作りの看板「ボランティア活動中」(写真)を若葉小学校児童が通学する下屋敷坂側に初めて掲示しました。

今回は、常緑樹の落葉かきを主体に活動しました。落葉の量を減らし、植物が芽を出し、育ち易くするためです。また、南側斜面は蚊が発生しないように伐採した竹に切れ目を入れました。緑地内の道筋で、子供の目の位置になる木、竹、しゅろ、あおき等を処理し、集めた枯草、枯木、草木を東側と西側に堆積、また、ゴミを収集。

なお、危険な立ち枯れ樹木数本の伐採を調布市に依頼、近々現地確認の予定です。今回特筆すべきは、環境省や東京都がレッドリスト絶滅危惧II類(VU)に指定する、キンラン、ギンランを確認できたことです。(K)

(※キンラン、ギンランは菌根性樹木・菌根菌・キンランの三者共生系を構築しなければ栽培できないと言われてます。自生地から掘り出して自宅に持ち帰っても育てる事は不可能です。盗掘や自宅への移植は、止めてもらいましょう。編集部より)



田んぼの学校

田んぼの学校は今年で20年たちます。佐須は都心から西へ一番近い田んぼです。ここを卒業したらどこかで本当に稲作をやってくれる人がいることを願っています。

田んぼの学校 お便り
◆種はつながっている
お米の起源は約15000年前、インドもしくは中国雲南で始まったそうです。最初は野生の種をまいて育てたようですが、そのうちに、まいて育てた稲から種をとるようになり、その種を持つて東へ移り住み、または、東の地方にいる人に伝えられました。6千年前の縄文時代に稲作の痕跡が見つかっています。

遺伝子組み換えは、はるか昔からつながっているお米の種に、つながらないものができるということの意味です。大変難しい問題ですが、一度考えてみる必要があります。

◆畑の広さの単位
私たちの田んぼは、3畝(せ)あります。約100坪。1畝は約99平方m、10畝で1反(たん)約991平方m、10反で1町(ちょう)約9917平方mです。

方m、10反で1町(ちょう)約9917平方mです。0アールで1ヘクタールなので、1町が約1ヘクタールになります。

豊臣秀吉は、太閤検地と呼ばれる田畑の全国測量をとるようになり、そのとき、度量衡の統一も行われました。そのときに、1反360歩を300歩にしました。1畝30歩となり、1アールにきわめて近い値になりました。秀吉(実際に指揮したのは石田三成)は1アールという単位を知っていたものと思っていました。調べた範囲ではそれらしい記述が見つかりません。反あたりの税収を上げるために300歩にしたという記述がありました。どうでしょう。みなさんも調べてみませんか。

田んぼの学校校長 尾辻

わかるかな？

ケヤキ・ムクノキ・エノキ
キツネノカミソリ・ヤブラン

- ・ケヤキはムクノキより細い卵形葉で、基部の3脈がなく(ムクノキ・エノキは3脈あり)葉柄が一番短い。
- ・キツネノカミソリとヤブランの芽だしの違いは、ヤブランの芽は手を合わせるような形で出てくる。

人間・樹林の会
ーブチ違いシリーズよりー



ちょうふの自然

みつけた!

いただいたメールより

4/22 ハナバチの仲間?庭に2匹飛んできました。春だなあ。でも羽もおなかも黒くて、マルハナバチとは少し違うような。セイヨウマルハナバチだったから特定外来種なので退治しなくてはいいけない。アシナガバチやスズメバチに比べると、なんとも濃厚そう。退治するのは気の毒な気がします。(NK)



◆クマバチです。針を持たないハナバチと異なり、スズメバチに次いで強い毒をもっています。但し、性格は極めて穏やかで、よっぽど捕まえてさわろうとしなければ、まず向こうから襲ってくることはありません。コシブトハナバチ科なので、ハナバチの一種といえば一種ですかね。(K)

5/19 シライソウの花を撮りに野草園に向かう途中、田んぼの学校の横の用水路で、調布の職員さん達がカワニナを捕っていました。公園課の方だと思いましたが「野草園の川に放してホタルを育ててるけど...」とカワニナもホタルの幼虫も今年も少なそうだと言っていました。(TS)



5/22 チャドクガが発生しました。ご注意ください。幼虫が新葉の裏に集団で固まっています。今が退治する適期です。(HT)

5/23 10日ほど前に御塔坂橋の下にカキツバタらしき花が咲いているのに気づきました。昨年は全く気づきませんでした。気づいぶんきれいに群生していました。近くには帰化植物のキシヨウブも咲いています。(NK)



環境市民活動スケジュール

人間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。

- 6/19(日) 9:30～12:00
- 7/17(日) 9:30～12:00

カニ山の会

原則毎月第2土曜に深大寺自然広場東樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接野草園横へ。

- 6/11(土) 10:00～12:00
- 7/9(土) 10:00～12:00

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜と次の木曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 6/12(日)・23(木) 9:30～12:00
- 7/10(日)・21(木) 9:30～12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 6/5(日) 10:00～11:30
- 7/3(日) 10:00～11:30

◆先の4グループとも活動への参加、その他は緑と公園課へお問合せ下さい。042-481-7083

環境モニター

6月から今年度の環境モニターが始まります。今年が多摩川植物調べが中心です。参加希望は環境政策課へお問い合わせ下さい。042-481-7086

市民発 ちょうふの自然だより

◆この「自然だより」は2009.3.15に設立された市民組織「ちょうふ環境市民会議」が編集発行しています。身近な自然情報や写真、環境イベント案内、市民活動の記録、花のコラムなどを掲載しています。カンパとボランティアで支えられて現在隔月発行中です。

◆“自然だより”は調布市環境部(市役所8F)、市図書館10館、地域福祉センター、あくろす2・3F、たづくり11Fみんなの広場、郷土博物館、実篤記念館、のほか、曼珠苑さん、みさと屋さんなどに置いてあります。ひきつづき応援団募集中です。